

先生や家族に支えられ 念願の世界大学選手権へ

学生トライアスリート 堤 啓さん(商4)

学生トライアスリート「村」として、日本選手権に出場するなど、活躍している堤啓さん(商4)が、6月29日から台湾の台北で開催されるFISU世界大学トリアスロン選手権(2012/イライラ)に日本代表選手として出場する。



堤さん(左)と富川准教授(右)と生田キャンパス総合体育館のプールで

堤さんは昨年9月のシエラネバダ国際大会で5位、世界大学選手権の選考基準レースでも上位に入り、2年に一度開催される同大会の出場権(男女各6人)を得た。「大学入学後、姉の影響でインカレサッカークラブで練習していた。就職活動で一時練習から遠ざかったが、昨年はトリアスロンのワールドカップ出場経験を持つ本学の富川理充商学部准教授の指導で、生田キャンパス総合体育館のプールでトレーニングを積んでいる。



▲ 昨年の日本学生選手権大会での堤さんは個人でも泳は練習場所の確保が大変です。富川先生に練習メニューを作成していただき、素晴らしい環境で練習をしています」と話す。

「大学入学後、姉の影響でインカレサッカークラブで練習していた。就職活動で一時練習から遠ざかったが、昨年はトリアスロンのワールドカップ出場経験を持つ本学の富川理充商学部准教授の指導で、生田キャンパス総合体育館のプールでトレーニングを積んでいる。

学生の手で防災と地域貢献

生田に「SIV」誕生

まず向ヶ丘遊園駅で活動

神田キャンパスのSKVと連動へ

防災と地域貢献を行う学生団体「SIV」専修員29人が誕生した。5月27日、メンバー10人が向ヶ丘遊園駅近くのダイエー店頭で神奈川県多摩警察署の要請により、防犯活動を展開した。当日は、同警察署の署員や地域ボランティアメンバーとともに、買い物客にひったくり被害防止を呼びかけながら防犯ネットを配布した。

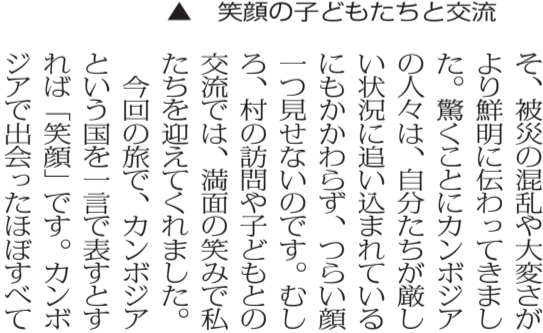


▲ 消火体験コーナーで消火器の使い方を訓練する学生たち

松本代表は「本日を機に活動を活性化させた」と話す。今夏には学生部、SKVとともに、石巻ボランティア活動も行う予定だ。同じくメンバーの中村麻衣さん(商3)は「特に防災活動の意識を学生たちに広めた」と力を込めた。

40人受講 神田キャンパスで災害救援ボランティア講座

2012年度専修大学(前期)災害救援ボランティア講座が5月、神田キャンパスなどで開講された。同26日には、東京・墨田区の本所防災館で、災害模擬体験が行われ、地震や暴風雨の模擬体験、消火器を用いた実技訓練などが行われた。



▲ 笑顔の子どもたちと交流

国際協力サークルS・I・Aのメンバー13人は、2月8日から21日まで、カンボジアを訪れ、カンボジアやベトナムの子どもたちの識字教育を促進するNGO団体J.L.M.M.が企画したスタディーツアーに参加。現地では子どもたちに寄り添い、大洪水の復興支援活動も行った。参加した吉田真之介さんの寄稿を紹介する。

国際協力サークルS・I・Aスタディーツアー

国際協力サークルS・I・Aのメンバー13人は、2月8日から21日まで、カンボジアを訪れ、カンボジアやベトナムの子どもたちの識字教育を促進するNGO団体J.L.M.M.が企画したスタディーツアーに参加。現地では子どもたちに寄り添い、大洪水の復興支援活動も行った。参加した吉田真之介さんの寄稿を紹介する。

吉田 真之介さん(法2)寄稿

S・I・Aでは、書き損の生活を行っている水上村じはがきの回収、ペットボ訪問、一般家庭へのホームトルキヤップ回収、フェアステイもしました。なかでトレード商品販売、アフリカの子どもたちへの給食支援活動などを行って

カンボジアの「笑顔」に触れる

カンボジアでは、首都プレンペンの中で埋められ、今なお集められ、処理できずに放置されているゴミ集積場(ステンミンチャイ)を訪れて学びました。これらすべての体験は、実際に歩き、またその付近に住む人々や子どもたちと交流を深めました。



▲ タオム村の人たちと

途上国の学校給食援助になる

S・I・Aは、年賀はがきなど書き損じはがきを収集し、特定非営利活動法人(NPO)に寄付、発展途上国の食糧支援に寄与する活動も行っている。昨年度は「多摩区・3大学連携協議会」が後援となり、活動の輪が広がった。本学構内のほか多摩区役所、明治大学、日本女子大学などにボックス10基を置き、回収活動を展開。742枚を回収、3万1164円相当が集まった。



▲ 2月に多摩区役所で活動報告をしたメンバー

書き損じはがき収集活動も活発に。集められたはがきはNPOハンガー・フリー・ワールドに渡し、換金されてパングラデシユなど発展途上国の学校給食などに利用される。書き損じはがき1枚がおかゆ1杯分になる。